

- 10:1 私は自分のいのちをいう。
私は自分の不平をぶちまけ、
私のたましいの苦しみを語ろう。
- 10:2 私は神に言おう。
「私を罪ある者となさらないように。
なぜ私と争われるかを、
知らせてください。」
- 10:3 あなたが人をしいたげ、
御手のわざをさげすみ、
悪者のはかりごとに光を添えることは
良いことでしょうか。
- 10:4 あなたは
肉の目を持っておられるのですか。
あるいは、人間が見るように、
あなたも見られるのですか。
- 10:5 あなたの日々は
人間の日々と同じですか。
あるいは、あなたの年は
人の年と同じですか。
- 10:6 それで、あなたは私の咎を捜し、
私の罪を探られるのですか。
- 10:7 あなたは、私に
罪のないことを知っておられ、
だれもあなたの手から
救い出せる者はいないのに。
- 10:8 あなたの御手は私を形造り、
造られました。
それなのにあなたは私を
滅ぼそうとされます。
- 10:9 思い出してください。
あなたは私を粘土で造られました。
あなたは、私をちに
帰そうとされるのですか。
- 10:10 あなたは私を乳のように注ぎ出し、

- チーズのように固め、
- 10:11 皮と肉とを私に着せ、
骨と筋とで私を
編まれたではありませんか。
- 10:12 あなたはいのちと恵みとを私に与え、
私を顧みて私の霊を守られました。

ヨブは自分には非がないと言いますが、それは人間を超えた存在であることを主張することです。でありながら、神に対しては「肉の目を持って」と、人間レベルの存在であるかのように言い張ります。自分の正しさを主張すると、神を間違った者としてしまい、迷路に入りこむのです。

その後ヨブは、神の創造の愛を述べて、そのような愛があるはずなのにと訴えます。それは確かなことであり、私たちが立ち返るべき基本です。さらに神様は十字架で永遠ののちを与えてくださいました。

私たちは、苦しみの中で自分の正しさを主張しがちです。しかし主の愛にすがるのが、回復への道なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

